赤十字NEWS

June 2012 Vol.865
http://www.jrc.or.jp
6
日本赤十字社

編集・発行／日本赤十字社 企画広報室　〒105-8521 東京都港区芝大門1-1-3 TEL：03-3438-1311　一部20円　赤十字新聞の購読料は、社費に含まれています。

「パパ、がんばれ！」

親子でAEDの使い方を体験
赤十字150年キャンペーン in 原宿表参道2012

赤十字の創始者アンリー・デュナンが1859年、戦場で「苦しむ人を敵味方の区別なく救護する」という赤十字の着想を得てから150年。日本赤十字社は「人間を救うのは、人間だ。」という思いを広く伝えるため、「世界赤十字デー」（5月8日）を中心に各地でさまざまなイベントを行いました（6面に関連記事）。こどもの日の5月5日、東京・原宿で開催したAED（自動体外式除細動器）体験イベントには、晴天のもと、多くの家族連れが参加しました。

CONTENTS

TOPICS 2
平成24年全国赤十字大会
東日本大震災復興支援
市民の健康と安心に貢献

TOPICS 3
原子力災害対策にかかる
赤十字国際会議開催
AKB48
「赤十字を知ってほしい。もっと。」
理事会開催報告
常任理事会開催報告
第80回代議員会開催公告

SPECIAL 4 5
幼児安全法を学ぼう
守りたい！
子どもたちの元気と笑顔

AREA NEWS 6 7
赤十字運動月間
徳島・大阪・宮城・岐阜
竜巻災害への義援金募集
Voice&プレゼント

WORLD 8
東日本大震災
支援国赤十字社会議開催
シエラレオネ
保健事業への支援スタート

クローズアップ ひと

歌手
由紀さおりさん（左）
安田祥子さん（右）

被災地の復興願い「故郷」熱唱

5月8日の全国赤十字大会で、懐かしい童謡や唱歌を熱唱した由紀さおりさんと安田祥子（さちこ）さん。「歌ってほしい曲はありますか?」と会場に声をかけ、「故郷（ふるさと）」をリクエストされると、「一日も早い被災地の復興を願い、一緒に歌いましょう」と参加者に呼びかけました。

東北での公演も精力的に行ってきました。「仮設住宅が並ぶ中でコンサートなんてやっていいのかしら、と悩んだこともありましたが、被災者の方からおすそ分けをいただいたりして勇気づけられました」と由紀さん。安田さんは「被災者の皆さんと一緒に歩んでいきたいという気持ちで歌っています」と語ります。

そんな二人だけに、今回の大会への出演を「素晴らしい救護活動をされた皆さんの前で歌う機会をいただき感謝しています」と笑顔で喜びます。日赤の活動についても「7000人が参加された救護班の活動など、心強かったです」（由紀さん）、「迅速な活動に赤十字の力を感じました」（安田さん）などと感想を寄せてくれました。

（2面にインタビューの続きを掲載）

PROFILE

子どものころから童謡歌手として活躍し、その後、姉の安田さんはクラシック界、妹の由紀さんは芸能界の道へ。姉妹による童謡コンサートは25年にわたって続けられ、日本全国、世界各地で好評を博す。由紀さんの歌う歌謡曲アルバム『1969』が昨年来、世界的に大ヒット。歌謡曲再評価の立役者ともなった。

平成24年全国赤十字大会

「連帯の精神」発揮し絆強めよう

平成24年全国赤十字大会が5月8日、日本赤十字社名誉総裁の皇后陛下、同名誉副総裁の秋篠宮妃殿下、常陸宮妃殿下、高円宮妃殿下ご臨席のもと、東京・渋谷区の明治神宮会館で開かれました。

この大会は、赤十字事業に日々取り組む方々をねぎらうとともに、赤十字活動に顕著な功績があった個人や法人への表彰として有功章を贈呈し、赤十字の普及を一層推進するために毎年開催されています。昨年は東日本大震災の被災者支援に全力で取り組むために中止されましたが、2年ぶりに開かれた今大会には、全国の赤十字社員やボランティアの代表など1600人余りが参加しました。

今年の有功章受章者は全国で個人61人、法人35社が選ばれました。宮城県石巻市の人見朋子さんや台湾の蔡雪泥（さいせつれい）さんら代表13人が、皇后陛下から有功章を授与されました。

また、東日本大震災・原発事故の被災者・避難者への支援活動を続けている山形県東根（ひがしね）市蟹沢赤十字奉仕団と、新潟県赤十字安全奉仕団燕（つばめ）市分団に社長表彰が贈られました。

日赤に寄せられた期待と信頼

近衛忠煇社長は、東日本大震災の発災直後から全社を挙げて過去最大規模の救護活動を展開したことを報告。奉仕団によるさまざまなボランティア活動も含めて国民から大いに注目されたと指摘し、「日赤への信頼と期待が3000億円を超える多額の義援金に反映された」と強調しました。

さらに「赤十字の使命である、人々のいのちと健康と尊厳を守るためには、『連帯の精神』を発揮することが必要であり、それによって人々の絆をさらに強める役割を担っていけると確信しています」と決意を語りました。

大会では、ニュージーランド地震と東日本大震災でこころのケアに取り組んだ横浜市立みなと赤十字病院の野口理恵子課長と、学校全体でさまざまな被災者支援を行った福島県国見町立県北中学校の青少年赤十字（JRC）メンバー、赤井畑誼（あかいはたよしみ）くんが実践活動を報告しました。

代表13人が、皇后陛下から有功章を授与されました

有功章受章者代表

人見 朋子（宮城県石巻市）
郡山 宗英（宮城県仙台市）
株式会社 郡山大新青果（福島県郡山市）
中村 昌光（茨城県つくば市）
中尾 純恵（神奈川県藤沢市）
平岡 みさお（静岡県静岡市）
高須 克彌（愛知県西尾市）
坂口 康一（滋賀県大津市）
徳原 千幸（京都府木津川市）
近藤 捷嘉（岡山県岡山市）
株式会社 高畑精麦（香川県善通寺市）
上村 俊朗（鹿児島県薩摩川内市）
蔡 雪泥（中華民国台湾台北市）

社長表彰受章者

山形県東根市蟹沢赤十字奉仕団
新潟県赤十字安全奉仕団燕市分団

（敬称略）

全国赤十字大会でコンサート

由紀さおりさん 安田祥子さん 響かせたい日本語の美しいしらべ

「美しい日本語で紡がれている童謡は日本の財産。家族愛や小動物への優しさ、季節の移り変わりを情感豊かに表現している歌詞も日本ならでは」――全国赤十字大会にゲスト出演した由紀さおりさんと安田祥子（さちこ）さん。童謡や唱歌の魅力について、こう声をそろえます。

姉妹による童謡コンサートが始まったのは昭和61（1986）年。音楽が消費される時代にあって、四半世紀にわたり二人の歌への支持は広がり続けてきました。

「たおやかで語感の響きが美しい日本語。先人たちが残してくれた歌には、この日本語の美しさが生きています」（由紀さん）。「『ちいさい秋みつけた』や『早春賦（そうしゅんふ）』のように、季節の変わり目の細やかさを描いた歌は、外国にはない、日本だけのもの」（安田さん）。言葉の端々に、一曲一曲を大切に歌ってきた思いがにじみます。

これからも姉妹で支え合って

そうした曲の数々を、ときには舞台で手をつなぎ、見つめ合いながら歌うことも。それぞれにとってお互いはどんな存在なのでしょうか？

安田さんは、「お互いを尊敬し合う良きライバル、良きサポーター」と由紀さんに笑顔を向けます。一方の由紀さんは、「唯一無二の存在」と全幅の信頼を安田さんに寄せます。「米国のジャズオーケストラ、ピンク・マルティーニとコラボしたアルバム『1969』が世界的にヒットしていますが、それも25年間、一緒に歌ってきた姉の支えがあればこそです」

大会では皇后陛下からお言葉をかけられる機会も。「“これからも姉妹で良い声で歌い続けてください”と励ましの言葉をいただきました」と二人で顔をほころばせました。

東日本大震災復興支援

宮城県沿岸部の医療支援相次ぎ完了

市民の健康と安心に貢献

津波により壊滅的な被害を受けた宮城県沿岸部の医療機関に対して、日本赤十字社は病院改修や仮設診療所の建設支援を進めています。このほど、南三陸町などでの事業が相次いで完了。生活再建への歩みを進める被災者の健康維持に、大きな役割を果たしています。

医療インフラの復興・整備は、日赤が各被災地で取り組んでいる「復興支援事業」の一環。各国赤十字社などから寄せられた963億円に上る海外救援金が財源です。

4月1日から診療を始めた公立南三陸診療所の建設も同事業が支えてきました。同診療所は、津波被害を受けた公立志津川病院の再建への一歩となるもの。歯科の斎藤政二医師は「この仮設診療所を、町民の皆さんは本当に喜んでいます。プレハブの時は、園芸用のポンプで加圧した水を診察台につなげ、手元から患者さんの口にシューッと出るようにしていました。排水はジョウロに流れ出るようにして、たまった水をバケツで看護師が捨てに行っていました。普通に水道が使える建物になって、本当に助かっています」と話します。

女川町地域医療センター

スイス赤十字が全面支援

1階部分の設備が流失するなど、甚大な被害を受けた女川町地域医療センター（被災当時は町立病院）。その再建・改修は、スイス赤十字社やスイス財団から日本赤十字社に寄せられた海外救援金を財源に進められてきました。

改修された同センターは、老人保健施設の機能を以前よりも強化しています。4月15日に行われた同センターの竣工式で須田善明町長は、「スイス国民から寄せられた善意を女川町民は決して忘れません」と感謝の言葉を述べました。

公立南三陸診療所の斎藤医師

災害医療の研修センターも

昨年12月の開設後、ひと月に1000人以上の患者さんを診ている石巻市夜間急患センターと、3月から患者さんを受け入れている石巻赤十字病院の仮設病棟も、海外救援金による復興支援事業として建設されました。

今後は、公立志津川病院の再建や石巻赤十字病院に併設する災害医療総合研修センター（仮称）の建設などを進めていく予定です。

原子力災害対策にかかる赤十字国際会議（5月14～16日）

被災者支援への国際協力のあり方を討議

専門担当者の配置などを決定

「原子力災害時の被災者救援に赤十字はどう立ち向かうべきか」をテーマにした国際会議が5月14日から3日間、日本赤十字社本社で開催され、日本のほかに15の国・地域の赤十字・赤新月社が参加。情報の蓄積や共有化、ガイドライン策定などを進めていく原子力災害対策専門担当者を配置することなどで合意しました。

会議では、各社から有意義な意見が寄せられた

今回の会議は、昨年11月の国際赤十字・赤新月社連盟（IFRC）総会で、原子力災害の被災者支援対策を強化することが決議されたことを受けたものです。

原子力災害に向き合う各国赤十字社の立場は必ずしも同じではありませんが、3日間の議論を踏まえて参加各社は、原子力災害の被災者支援が、政府や専門機関のみならず、国内で草の根の組織を持つ赤十字も取り組むべき課題の一つであることを再確認。自然災害や生物化学災害対策の延長線上に原子力災害対策を位置付けること、そのために国際赤十字のネットワークを駆使すること、また政府・国際機関との連携強化を進めることなどで一致しました。

赤十字が着目する具体的な支援分野として、①職員やボランティアへの教育、地域住民への啓発および準備（放射線測定機器など）②高齢者や子どもなど弱者に焦点を当てた被災者支援 ③住民の健康調査やこころのケアへの関与――などが挙げられました。新たにIFRCに配置する専門担当者を中心に、今後、これらに取り組む準備を進めていきます。

「情報収集」も議論

会議冒頭のあいさつで近衛会長は「赤十字は、原発を推進してきた政府から中立の立場で、市民の防災教育や災害対策に関わることができる」と、この問題に取り組む意義を強調。各社からも、原発事故の被災者支援という人道的課題に向き合うべきとの決意が表明されました。

赤十字による被災者支援は、政府や自治体を補完する形で実施されます。しかし、原発は極めて政治性が高い問題。実際に事故が発生した際の情報を政府からどれだけ入手できるのかについて議論になりました。

複数の社が「政府が赤十字に対して情報提供を行わない可能性がある」「政府情報に100％の信頼が置けるのか？」という懸念を表明。スリーマイル島原発事故を経験したアメリカ赤十字社は、「正確な情報を迅速に提供しなければ、赤十字も住民からの信頼を失う危険がある」と指摘しました。

こうした議論に対して近衛会長は、「IFRCとして原子力災害対策の方針を決めておくことが、各国政府に情報提供などを促す際の根拠となりうる。そうした視点からも赤十字が被災者支援の国際的なガイドラインを発信することが重要だ」との考えを強調しました。

支援者の安全重視

被災者支援の際の安全確保も重要な論点です。

赤十字国際委員会（ICRC）は「職員の健康が守られなければ、活動の継続性は担保されない。どのような活動を行うにせよ、被ばくへの対処法を用意しておく必要がある」と問題提起。各社も「職員やボランティアの二次的災害を防ぐことが重要」と訴え、そのための取り組みとして「原子力災害や生物・化学災害のリスクについての教育が重要」といった意見が寄せられました。

若者へのメッセージ「赤十字を知ってほしい。もっと。」

日赤×AKB48 キャンペーン 第2弾 ついにスタート！

赤十字について共感したことを話すメンバー（テレビCMより）

昨年、AKB48を起用して展開した若年層広報キャンペーン「AKB48と一緒にもっとよく知る赤十字！」に続き、今年もAKB48とコラボレーションしたキャンペーンを行います。

今年のテーマは「赤十字を知ってほしい。もっと。」。AKB48を通じて日本赤十字社の活動を分かりやすく伝えるとともに、AKB48と同世代の若者たちが自分で考え行動するきっかけになるよう、テレビCM、特設ホームページなどの媒体を使ってメッセージを発信します。

AKB48の想いを伝える

日赤のオフィシャルメッセンジャーとなっているAKB48のメンバーは、事前に赤十字事業や理念、さらには義援金と活動資金の違いなどについて学び、CMなどの撮影に臨みました。ホームページなどでは、彼女たちが赤十字を知って実際に感じた想いを広く皆さんに知ってもらえるようなコンテンツを準備しています。

6月4日の記者発表会を皮切りに、特設ホームページの開設やメールマガジンの配信などを予定しています。メールマガジンに登録した方にはキャンペーンに関する最新情報のほか、AKB48のメンバーからのメッセージもお届けする予定になっており、楽しみながら赤十字をより深く理解できるようになっています。

理事会開催報告

平成24年5月7日、本社において平成24年度第1回の理事会が開催されました。

審議結果は左記のとおりです。

付議事項

1　血漿分画事業の統合にかかる確定契約の締結等について

審議の結果、原案のとおり議決されました。

また、昭憲皇太后基金の配分決定等、原子力災害対策にかかる赤十字会議等について、それぞれ報告しました。

常任理事会開催報告

平成24年5月18日、本社において平成24年度第2回の常任理事会が開催されました。

審議結果は左記のとおりです。

付議事項

1　予算の補正について
（仙台赤十字病院の衛生設備等改修工事にかかる医療施設特別会計歳入歳出予算の補正）

2　資金の借入について
（仙台赤十字病院の衛生設備等改修工事にかかる資金の借入）

審議の結果、予算の補正及び資金の借入については原案のとおり議決されました。

また、小川赤十字病院の施設整備計画、唐津赤十字病院の施設整備計画及び日本赤十字社における看護師の養成について、それぞれ報告しました。

第80回代議員会開催公告

平成24年6月20日（水）、午後1時から新霞が関ビル「全社協・灘尾ホール」（東京都千代田区霞が関3丁目3番2号）において第80回代議員会を開催し、左記の事項を付議いたします。

平成24年6月1日

日本赤十字社

記

第1号議案　役員の選出について

第2号議案　平成23年度事業報告及び収支決算の承認について

守りたい！

子どもたちの元気と笑顔

～大切ないのちのために、幼児安全法を学ぼう～

わが子や預かっている子どもが事故に遭ったり、急病になったら――こんな“もしも”を想定して、事故予防や手当の方法などを学ぶのが幼児安全法です。0歳から小学校入学前までの乳幼児を対象にした救命講習は、日本赤十字社の幼児安全法だけ。講習に参加し、あなたも子どもたちの元気と笑顔を守るメンバーになってみませんか！

社会全体で見守りたい子どもの成長

東京都支部 幼児安全法講師　脇 浩美

赤十字幼児安全法の特色の一つが事故予防です。子どもの事故はある程度決まったパターンで起きていて、どこに危険があるのかを知っておくことで、多くは未然に防ぐことができます。講習では、心肺蘇生やAEDの使い方も学びますが、これらを使う事態にならないことが一番ですよね。

子育ての力強いサポーター

核家族化で、周囲に子育ての相談相手がいないお母さん、お父さんが増えています。幼児安全法はこうした親の不安を和らげ、安心して子どもと向き合えるようサポートしていく役割も担っています。子ども連れで参加できる短時間の講習もありますので、子育ての広場としても活用していただきたいと思います。

また、最近はお孫さんがいらっしゃる方や学生さんなど親以外の方の受講も増えています。こうした皆さんが、講習の知識や技術を活かして、地域で子育て支援者として活動し、社会全体で子どもの成長を支えていけるようになることを日赤は願っています。

思わぬ事故から子どもたちを守る

子どもの事故の大部分は、家の中やその周辺で発生しています。どこに危険が潜んでいるのかを知り、注意を払うことが、事故を未然に防ぐポイントです。

おうちの中は危険がいっぱい！

- 火の付いたたばこを握ってしまう
- テーブルの上にある味噌汁などをかぶる
- ストーブややかんに触る
- 加湿器の熱風を浴びてしまう
- ポットやアイロンをいたずらする
- 熱いシャワーを浴びてしまう

- たばこやボタン型電池などを口にする
- 豆類やあめ玉が気管に詰まる
- ビニール袋や風船で口をふさがれる
- ふかふかの布団でのうつぶせ寝で窒息する
- 毛布や布団が顔にかかって息ができない

- 窓から乗り出す
- ベランダから階下へ落ちる
- いすやベッド、階段から落ちる

- お湯や水を入れた湯船に落ちる
- 水が入った洗濯機に落下する
- バケツや大きな水槽に頭から落ちる

- テーブルの角に頭をぶつける
- ドアに手を挟む
- 扇風機に手を挟む
- 開き戸や引き出しに手を挟む
- 包丁やはさみ、カミソリをいたずらする

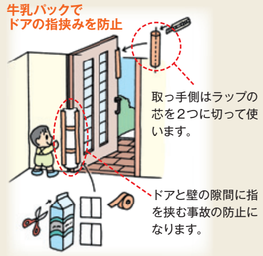
ひと工夫で事故防止を

事故につながるものを子どもの手の届く範囲に置かないことが大切ですが、小さな工夫が事故防止に役立つこともあります。例えばこんなアイデアは――。

ゴムホースでコーナークッション

テーブルのとがった角にぶつけて、頭を切るような事故の防止になります。

牛乳パックでドアの指挟みを防止



取っ手側はラップの芯を2つに切って使います。

ドアと壁の隙間に指を挟む事故の防止になります。

心停止！いのちを左右する 一次救命処置

けがや窒息などにより心停止に至る乳幼児の事故は少なくありません。保護者はもちろん、保育士や幼稚園・学校の先生、スポーツ指導員など、子どもと接する機会が多い人には、乳幼児向けの一次救命処置の習得が推奨されています。

1 子どもの意識を確認

乳児（1歳未満）：足の裏をたたいて刺激します。
幼児（1～6歳未満）：肩をたたきながら、耳元で声をかけます。
反応がないときは、協力者を求め、119番通報を行い、幼児の場合はAED（自動体外式除細動器）の手配を依頼します。

2 息をしているか素早く判断

胸とお腹の動きをよく見て、普段どおりの呼吸がなければ心停止と判断。この判断には10秒以上かけないようにします。

3 心肺蘇生で血液と酸素を送る

胸骨圧迫（心臓マッサージ）

乳児：胸の真ん中に2本の指を垂直に立てて、胸の厚さの3分の1程度沈み込むように強く圧迫します。
幼児：片手または重ねた両手の手のひら下部（手掌基部）で圧迫します。
乳幼児いずれの場合も、毎分少なくとも100回のテンポで圧迫します。

繰り返し

気道確保と人工呼吸

子どもの場合はできるだけ早く人工呼吸を行います。下あごを上げると空気が通りやすくなります。その状態で、乳児は口と鼻を自分の口で覆うように密着させ、息を吹き込みます。幼児は鼻をつまみ、口を覆って行います。人工呼吸2回、胸骨圧迫30回を繰り返します。

4 AEDで心臓の動きを正常に

幼児の場合（乳児へのAEDの使用は認められていません）

心臓のけいれんを抑えて、正常な動きに戻す装置がAEDです。電源を入れ、音声ガイドの指示通りに電極パッドを胸部に貼ると、自動で心電図を解析。電気ショックの必要・不必要を判断してくれます。電気ショックの後（またはショックが不要な場合）は直ちに、心肺蘇生を再開します。

窒息事故から子どもを救う 気道異物除去

小さな子どもは、手に取った物を何でも口に入れてしまいます。そうしたとき突然苦しみだしたら、喉に異物が詰まっている可能性が大。幼児の場合は、すぐに本人に強い咳をさせます。それでも喉に詰まったものが取れない場合、119番通報と手当が必要です。

背中をたたく

乳児：片方の手で後ろ側からあごを持ち、その腕に胸とお腹を乗せて頭を下にしてうつ伏せに。もう一方の手の手掌基部で背中の真ん中をたたきます。
幼児：お腹の辺りで抱きかかえ、頭を低くして、背中をたたきます。

乳児のみ 指で胸を圧迫する

手のひら全体で後頭部を抱えたまま、片方の腕に乳児の背中を乗せてあおむけに。もう一方の手の2本の指で胸の真ん中を力強く数回連続して圧迫します。心肺蘇生の胸骨圧迫と同じ方法です。

幼児のみ 抱きかかえて突き上げる

後ろから両手で抱く形で、おへそのすぐ上辺りに握りこぶしの手を当て、手前上向きに瞬間的に突き上げます。この方法は内臓を傷める可能性があるので、異物が除去できた場合でも速やかに医師の診察を受けてください。

※喉の異物が取れるまで繰り返しますが、窒息により意識がなくなった場合は、心肺蘇生を行います。

子どもの命と健康を地域で守ります

コープ共済連と日赤タイアップでワークショップがスタート

お互いの組織の長所を活かして、子育て支援の取り組みを全国に広げよう――日本赤十字社は、日本コープ共済生活協同組合連合会（コープ共済連）とのタイアップによる「子どもの命と健康を地域で守るワークショップ」の全国展開を今年4月からスタートさせました。

全国に組織があり、1700万人を超える組合員を抱える生活協同組合。この生協組織を背景に持つコープ共済連では以前から、2歳未満の子どもがいる家族などを対象に「赤ちゃんの事故予防」の学習会を開催してきました。一方、日赤は長年にわたり幼児安全法の普及に取り組み、全国に2000人を超える幼児安全法指導員がいます。

子育て支援に力を入れてきた両組織が手を結ぶことで、子育て支援の輪をより大きく広げていくことが、ワークショップ開催の狙いです。

ワークショップの主な内容
（日赤の幼児安全法指導員が担当します）

◆ **子どもに多い病気（症状の手当）**
発熱や下痢などの手当や、病院に連れて行くかどうかの判断方法などを学びます。また、放射線の基礎知識と、誰でもできる予防対策を学習。過度な不安の軽減を図ります。

◆ **子どもの救急時の対応（心肺蘇生とAED）**
救急車が到着するまでに行うべき救命処置の方法を学びます。

● 幼児安全法講習、コープ共済連とのワークショップへの参加・お問い合わせは、右記ナビダイヤルへ。全国どこからでも最寄りの日赤支部へつながります。**ナビダイヤル＝0570-009595**

赤十字運動月間

全国で多彩なイベントを開催

新緑の下、人道活動を広くアピール

5月は「赤十字運動月間」です。日本赤十字社は世界赤十字デー（5月8日、赤十字の創始者アンリー・デュナンの誕生日）を中心に、全国各地でさまざまなイベントを展開。多くのボランティアや青少年赤十字（JRC）のメンバーも加わって、赤十字の思想や活動を広くアピールし、理解と協力を求めました。

子ども撮影会

長野（5月12日） JR長野駅の東西自由通路広場や駅前広場で赤十字活動を紹介するパネル展示やDVD上映などを行い、救護服を着た子どもの撮影会を開きました。26日には諏訪赤十字病院で8回目になる病院祭を開催。

原宿にあふれる笑顔

東京（4月28日～5月11日） 新緑が目に染みる東京・原宿の表参道では、街頭に赤十字旗や「150年キャンペーン」旗を掲揚して、「運動月間」をPR。協力店舗に赤十字ベア「Crokuma」のぬいぐるみを飾りました。5月5日のAED体験イベントのほか、5月11日には母の日（同13日）にちなんで、お花のプレゼントも行いました。

テレビ塔をライトアップ！

北海道（5月8日） 札幌のシンボル「さっぽろテレビ塔」を、赤十字のコーポレートカラーの赤色でライトアップ。午後7時に1万8400個のLEDライトが点灯すると、赤く浮かび上がったテレビ塔をバックに、多くの市民や観光客が記念写真を撮っていました。

パレードに参加！

広島（5月3日～5日） 広島市の平和大通りなどを会場に毎年開かれ、100万人以上が訪れる「ひろしまフラワーフェスティバル」。赤十字奉仕団やJRCのメンバーら約180人が府中町立府中中学校（JRC加盟校）のマーチングバンドの演奏に合わせてパレードを行い、赤十字をPRしました。

ショッピングセンターでPR

愛知（5月8日） 名古屋市西区のショッピングセンターで、タレント・書家の矢野きよ実さんのトークイベントや、災害時に役立つホットタオルのつくり方体験イベントなどを実施。参加者からは「日赤が日頃から災害に備えてさまざまな取り組みをしていることが分かりました」との声が。

旧日本赤十字社救護看護婦等に対する書状贈呈事業について【お知らせ】

先の大戦において外地等（事変地または戦地の区域）に派遣され、戦時衛生勤務に服された旧日本赤十字社救護看護婦、および旧陸海軍従軍看護婦のうち慰労給付金受給対象とならない方々に対して、その労苦に報いるため内閣総理大臣名の書状を贈呈しています。

書状の贈呈は、請求書類による申請に基づいて行っていますので、請求する方は、総務省大臣官房総務課管理室に直接請求書類を送付してください。請求の用紙は、総務省大臣官房総務課管理室のほか、各都道府県および日本赤十字社各都道府県支部に用意しています。請求期限は、平成25年3月31日までです。

ご連絡をお待ちしています。

1. 請求することができる方

外地等（事変地または戦地の区域）における戦時衛生勤務経験を有し、加算年を含めた勤務期間が12年未満の旧日本赤十字社救護看護婦および旧陸海軍従軍看護婦であった方。

ただし、「慰労給付金を受給されている方」および「すでに内閣総理大臣の書状を受給されている方」は対象となりません。

2. 請求期限

平成25年3月31日まで

3. 請求書類の送付先および問合せ先

〒100-8926
東京都千代田区霞が関2-1-2　中央合同庁舎2号館8F
総務省大臣官房総務課管理室　業務担当
電話　03-5253-5182（直通）

（注）請求書類の受付は、各都道府県および各市区町村では行っていません。

AREA NEWS

NHKイベントに出展 キッズ救護員誕生

大阪府
2012.5.3～5

キッズきゅうごいんになって、「ハイ、ポーズ！」

大阪府支部は5月3～5日、NHK 大阪放送局で開かれたイベント「BK ワンダーランド・春」に赤十字ブースを出展し、子ども向けの写真撮影などを行いました。

ブースでは、非常食や簡易トイレ、笛、万能ナイフなどの防災グッズの実物を展示し、災害時に必要な物を知ってもらうとともに、ストッキングや新聞紙など身近な物を使って、傷や骨折を手当する方法を紹介。来場者からは「簡易トイレは意外と小さいですね」「ストッキングで手当ができるとは驚きです」などの声が聞かれました。

赤十字ブースには1日約100人の来場があり、子どもを含めて多くの人に赤十字の活動を知ってもらう機会となりました。

「はな・はる・フェスタ2012」 臨時救護所を設置

徳島県
2012.4.20～22

来場者の血圧を測定する奉仕団員

4月20日から3日間、徳島市中心部の藍場浜公園で徳島の春の祭典「はな・はる・フェスタ2012」が開かれ、徳島県赤十字看護奉仕団が救護活動に取り組みました。この祭典は阿波おどりに次ぐ徳島のビッグイベントで、今年で15回目。

会場内に設営された臨時救護所には奉仕団員2人が常時待機し、転倒した子どもや靴擦れした女性らを手当てしたほか、希望者には血圧測定を実施。来場者からは「救護所があるのは心強い」との声も。

同奉仕団はこれからも、県内で開催されるさまざまなイベントで「もしも」のときに備えた活動を展開するとともに、「赤十字のこころ」を広めていきます。

連休活用し救急法講習 県外の参加者で大盛況

岐阜県
2012.5.3～5

三角巾を使用した頭部包帯法

岐阜県支部は5月3～5日、ゴールデンウイークを利用した赤十字救急法講習（救急法基礎講習と救急員養成講習）を開催しました。大型連休中の講習は毎年恒例となり、締め切り日の1カ月前には定員に達するほどの人気です。受講者の半数は県外からで、関東から参加した人もいました。

昨年12月に内容が刷新された基礎講習では、指導補助やオブザーバーとして参加し、知識を深めるボランティア指導員の姿も。2日間の日程で行われた救急員養成講習のうち、三角巾を使った包帯法は2日目に集中実施。受講者は朝から夕方まで、胸部包帯法や頭部包帯法などに懸命に取り組みました。

海外救援金活用し 救護装備資材を配備

宮城県
2012.4.12

配備された災害救援等車両（はくあい号）

宮城県内では東日本大震災によって、各市町村に配備していた災害救援等車両や救護資材倉庫などの救護装備資材が、流出したり使用不能になったりするなど、大きな被害を受けました。

そこで宮城県支部ではこのほど、海外救援金などを財源として災害救援等車両18台、非常用移動炊飯器78台、テント37張、救護資材倉庫21棟を配備しました。

4月12日に行われた引き渡し式で、支部から目録を手渡された市町村の担当者は、「津波に流されなかった資材が被災者救援に大変役立ちました。今回配備された救護装備資材は防災訓練などでも活用します」と話しました。

今後、毛布などの救援物資の配備も予定しています。

Voice & プレゼント

Voice　本紙に寄せられた読者の声をご紹介！

自分も頑張ろう ――― 滝沢　遼さん（千葉県流山市）

赤十字新聞の「AREA NEWS」を見ていると、自分も頑張ろうと思えてきます。いのちの大切さや人と人とのつながり、絆を育む姿が載っている新聞を楽しみに、来月も献血ルームに行きます。

プレゼント

日本赤十字社のテレビCMに楽曲を提供したDef Tech のタオルを5名様にプレゼントします。以下の項目を明記のうえ、郵送・FAX・メールにてご応募ください。

①お名前（匿名をご希望の方は、その旨もご記入ください）
②郵便番号・ご住所　③電話番号　④年齢
⑤赤十字新聞 6月号を手にされた場所（例／献血ルーム）
⑥赤十字新聞へのご意見・ご感想や、扱ってほしいテーマなど

応 募 先●郵　送／〒105-8521　東京都港区芝大門 1-1-3
日本赤十字社 企画広報室　赤十字新聞6月号プレゼント係
ＦＡＸ／03-3432-5507
メール／koho@jrc.or.jp（件名「赤十字新聞6月号プレゼント係」）

応募締切●6月25日（月）必着
※当選者の発表はプレゼントの発送をもって代えさせていただきます。

facebook に日赤公式ページができました。東日本大震災での取り組みをはじめ、とっさの手当や献血のこと、国内外の活動現場の写真など赤十字ならではの最新情報を発信していますので、ぜひご覧ください！
http://www.facebook.com/japaneseredcross

竜巻災害への義援金募集

5月6日、茨城県つくば市や栃木県益子町などで発生した竜巻により被災された方々への義援金に、ご協力をお願いします。

1 茨城県支部での義援金受付
名　　称＝茨城県竜巻災害義援金
受付期間＝平成24年**7月31日（火）まで**
受付口座＝郵便振替口座 **00190-9-771**
加入者名＝日赤茨城県支部
茨城県竜巻災害義援金

2 栃木県支部での義援金受付
名　　称＝栃木県竜巻災害義援金
受付期間＝平成24年**7月31日（火）まで**
受付口座＝郵便振替口座 **00140-6-776**
加入者名＝日赤栃木県支部
栃木県竜巻災害義援金

※振替用紙の通信欄にそれぞれの名称を明記してください。
受領証発行を希望される方は、通信欄に「受領証希望」と必ず明記願います。
※窓口での取り扱いの場合、振替手数料は免除されます。
※銀行口座でも義援金を受け付けております。詳しくは茨城・栃木両県支部までお問い合わせください。
茨城県支部 TEL 029-241-4516、栃木県支部 TEL 028-622-4327

日本赤十字看護大学 平成24年度公開講座「がんと人生―妻を看取る日―」

本年度公開講座は、垣添忠生（かきぞえただお）先生をお招きし、「がんと人生―妻を看取る日―」をテーマに、人生の最期をどう迎えるか、そのためのヒントを受講者の方々とともに考えていきます。

●**日　　時**：平成24年6月29日（金）
15：00～17：00〈受付開始 14：30 予定〉
●**場　　所**：日本赤十字看護大学 広尾ホール（東京都渋谷区広尾 4-1-3）
●**参 加 費**：無料
●**定　　員**：500名（先着順、定員になり次第締め切りの場合あり）
●**申込方法**：往復はがきに住所、氏名、連絡先を書いて下記までお送りください。
日本赤十字看護大学　公開講座係
〒150-0012　東京都渋谷区広尾4-1-3
TEL 03-3409-0875　FAX 03-3409-0589

WORLD NEWS

東日本大震災

第2回支援国赤十字社会議

海外救援金活かした復興支援事業の進捗を確認

東日本大震災の甚大な被害に対して、各国の市民から各赤十字・赤新月社を通して寄せられた多額の海外救援金。日本赤十字社はこれを活用して被災地の復興支援事業を展開しています。こうした事業の進捗の確認を行うため、「第2回東日本大震災支援国赤十字社会議」が5月18日、都内で開催されました。

「支援、励まし、そして団結に感謝」

会議には13の国・地域の赤十字・赤新月社や、国際赤十字・赤新月社連盟（IFRC）などから40人以上が出席。会議に先立ち、福島県福島市や宮城県南三陸町、石巻市などを訪問して、復興支援事業が被災者にどう役立っているかなどを視察しました。

これまで96の赤十字・赤新月社などから日赤に寄せられた海外救援金は、総額約963億円に上ります。

日赤は、平成25年度までの予定で、被災した方々に対する生活再建支援や福祉サービス支援、教育支援、医療支援、原発事故対応、さらに日赤の災害対応能力強化などに取り組んでいます。

日赤の近衞忠煇社長は、「海外の皆さんから寄せられた温かい支援と励まし、そして団結に心から感謝します」と各社に謝辞を述べるとともに、「東日本大震災の経験を共有することにより、赤十字全体で大規模災害対策を見直していきましょう」と呼びかけました。

大規模災害に世界が力を合わせて

IFRC評価チームによる提言について説明したビヨン・エダーIFRC駐日代表は、通信や交通の途絶、電力・燃料供給の寸断など、日本のような先進国にも自然災害に対するぜい弱性があることを指摘。「各赤十字社とも原発事故に対する準備はできていないかもしれないが、赤十字では想像できないことを想像していくことが重要」と、赤十字が原子力災害でも被災者救援に携わるべきと訴えました。

日赤に寄せられた多額の海外救援金についても触れ、「先進国での大規模災害にあたっても、当事国の赤十字社だけで対応すべきではないという認識が、各赤十字社に広がっている」として、IFRCの対応ルールづくりが必要だと述べました。

こうした評価や指摘を受けて、日赤本社救護・福祉部の木村尚文部長は、防災ボランティアやこころのケア活動の役割と内容、海外からの支援の受け入れ体制、原子力災害の対応方針や装備・訓練体系などを早急に検討していくと発言。東日本大震災で明らかになった課題も含め、予想される大規模災害に対して、柔軟に対応できる体制づくりや災害対応能力の強化、赤十字のネットワークを活かした対応計画を策定すると述べました。

各赤十字・赤新月社の代表からは、「復興支援事業計画のうち実施率63%というのは、素晴らしい」（ドイツ）、「日赤の日頃の活動に対する評価が高いので、これほど多くの義援金や海外救援金が集まったのではないか」（イラン）、「赤十字が一つのファミリーとして行動することは大変素晴らしいこと。東日本大震災での経験を、世界中の赤十字・赤新月社も共有するだろう」（マレーシア）などの見解が出されました。

会議に先立って行われた視察にて。福島赤十字病院でホールボディカウンターの説明を聞く海外赤十字社の代表

被災地を訪れて

世界にあふれる、「日本を応援したい」という思い

IFRC広報担当 フランシス・マーカス

今回の震災は欧米に住む人々にとっても、「先進国でも大震災が起きたらこのような状況になるのか」と、被害の大きさや震災が引き起こした問題の深刻さにショックが大きかったと思います。同時に、大きな災害に直面しても平静を保とうとする日本人の強さや品位、そして自らが被災しながらも、より深刻な被害を受けた人々を助けようとする被災者の姿に、胸を打たれました。

被災者と腕を組む筆者（左）。IFRC北京事務所に駐在し広報を担当。震災以降、被災地を5回訪問し、被災者や復興支援事業を取材している

私がこれまでに被災地を数回訪問した中で印象に残っている取材の一つは、福島県浪江町から避難して同県西白河郡矢吹町の仮設住宅に入っている年配の女性を訪問した時のこと。彼女は、震災前に亡くなった旦那さんと薪（まき）の写真を見せながら、「夫の手づくりのお風呂に、薪をくべるのが私の日課だった。もう、それもできないんだ」と何度も話すのです。そう私に語ることで、日常生活を失ってしまったことを確認しているのではと思いました。

もう一つは、ある日赤職員と一緒に岩手県大槌町へ行き、津波で流された彼の実家の周りを歩いた時のことです。成人式の日に自宅前で友人たちと撮った写真を、撮影された場所で見せてくれました。人道支援の分野に従事する私たちは、時に自分の感情をあえて切り離すことがあります。自分の気持ちと向き合ってしまうと仕事に集中できなくなるからで、一種の職業上の防御反応です。しかし、実際に見聞きしているうちに、その人と同じ心境になって感情を動かされてしまう瞬間があります。この二つの取材では心を揺さぶられました。

「日本を助けるために、自分たちにもできることがある」と感じている人は、世界中に大勢います。そんな人たちに対して、この夏は被災地の子どもたちを対象にしたサマーキャンプや、福島赤十字病院に導入されたホールボディカウンターで内部被ばくを調べる県民の姿、仮設住宅で暮らす人々などを紹介していきたいと考えています。

シエラレオネ

内戦からの復興目指し10年

保健事業への支援スタート

アフリカ西部のシエラレオネ共和国。内戦終結から10年が過ぎ、復興への歩みが進められる中、さらなる保健衛生環境の改善が求められています。日本赤十字社は、シエラレオネ赤十字社の地域保健事業への資金支援を今年1月から始めました。

電気も水道も通っていない地方の村。木や土、わらなどでつくられた住居には台所もトイレもありません。水は小川にくみに行き、トイレは茂みで済ませます。家の裏に捨てられたごみの周囲を家畜が歩き回るなど、衛生環境は良くありません。

保健衛生の正しい知識を、多くの住民が持っていないことも、大きな影を落としています。HIV/エイズやマラリアなどの感染症に無防備で、感染を拡大させてしまうからです。内戦の後遺症とも相まって、平均寿命は48歳、5歳未満児死亡率は出生1000人に対して192人といずれも世界最低の水準です。

村の衛生環境と住民の健康状態、改善へ

こうした中、地域保健事業に取り組んでいるのがシエラレオネ赤十字社です。

子どもに予防接種を受けさせているか確認するボランティア

全国13県約4000村を対象とする同事業は、①HIV/エイズ ②母子保健 ③水と衛生 ④感染症対策 ⑤緊急保健――5つの保健分野をカバー。すでに事業が実施された村では、井戸やトイレ、ごみ捨て場、家畜の柵などがつくられました。

研修を受けた住民ボランティアによる家庭訪問や、地域集会などを通じた保健衛生教育も行われ、産前検診や保健所での出産件数の拡大、子どもの予防接種の普及などの効果が報告されています。

日赤は、同国赤十字社が事業を実施する13県のうち北部3県における地域保健事業の活動に対して、資金支援を2年間にわたり行っていきます。

シエラレオネ内戦

ダイヤモンドの利権や部族間対立、貧困問題などが複雑に絡んだ内戦。1991年からの11年にわたる戦闘で7万5000人以上の死者、53万人ともいわれる難民が発生しました。戦闘に無関係な住民の手足を切断したり、誘拐した子どもを兵士に仕立てて人々を襲わせたりする非人道的行為が繰り返され、世界に衝撃を与えました。